

編集後記

本号の巻頭言は奥井義昭教授にお願いいたしました。

「次の橋梁設計基準が目指すべきもの」と題して、今回の道路橋示方書（平成29年11月改訂）について、部分係数法の採用に加えて限界状態について定義されるなど大幅な変更が行われたものの、設計基準の世界標準から見るとまだ後塵を拝している点を挙げており、次の改訂へ向けて具体的な海外の基準を交えつつ今後の日本の設計基準のあり方について貴重なご意見を頂いております。

先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

昨今、高速道路会社を中心とした大規模更新・修繕事業が既に全国各地で始まっておりますが、中でも橋梁の老朽化対策に関するものは数多くあり、床版取替などでは、工事に伴う交通規制が長期間に及ぶことにより、交通渋滞の発生など社会的にも非常に影響が大きいものと思われま

す。今回の技報においても、上記に関連し、当社の取り組み状況として今回新たに開発した「大型パネル切断・撤去工法」について紹介しております。本工法は作業の効率化と周辺環境に配慮したものであり、今後の長寿命化・大規模更新工事に貢献していければと考えております。

その他に、縦取り・横取りを併用した特殊な橋梁架設工事、PC桁の架設工事、建物改修工事など多方面にわたった工事報告に加え、新技術としてレーザースキャナを用いた計測の紹介もしております。これらの報告が今後の橋梁や建築に関する技術の向上への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、執筆者を始め多くの関係者のご協力により本号を発刊することができたことに感謝いたします。

宮地技報編集委員会

委 員 長	上 原 正						
副 委 員 長	平 島 崇 嗣	百 瀬 敏 彦					
委 員	安 藤 正 志	梅 沢 真 悟	嬉 克 徳				
	奥 村 恭 司	小 原 久 齊	藤 直 政				
	戸井口 由 和	永 谷 秀 樹	野 沢 栄 二				
	藤 井 利 明	村 井 向 一	村 上 貴 紀				
事 務 局	稲 田 博 史	田 村 修 一					

宮地技報 第31号

発行日 平成30年5月31日

発行所 宮地エンジニアリング株式会社

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町19番19号

TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社